日 乗 連 ニ ュ ー ス
ALPA Japan NEWS
www.alpajapan.org
Date　2008.4.25　No. 31 – 38

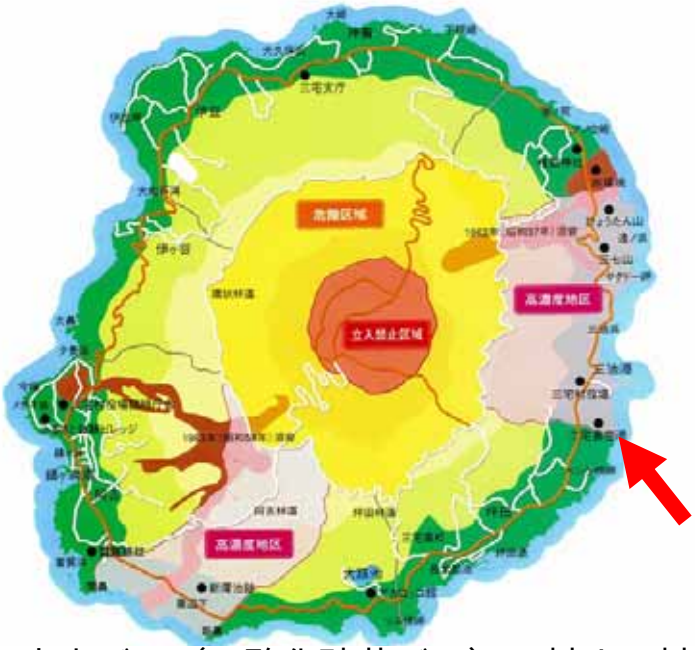
発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5－11－4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

4 月 26 日から運用再開予定の「三宅島空港」視察を実施

－日乗連 AGE（飛行場環境）委員会－

2000 年の三宅島火山噴火以来閉鎖されていた三宅島空港は、今年 4 月 26 日から約 7 年半ぶりに運用再開される予定です。「安全な運航が出来る環境にあるのか調査が必要である」との現場乗員の声を受け、日乗連 AGE 委員会は、運航を担当する A-NET（ANA グループ）乗員組合と共に 4 月 3 日、三宅島空港視察を行いました。

三宅島空港の概要



三宅島空港は、三宅島の東側に位置し、滑走路は 02/20、1200×30m。リモート管制業務による運航。季節風卓越時には雄山越えの GUST が強く厳しい運航が予想される。また、西風時には風下に当たる為、空港の北側約半分が火山ガス「高濃度地区」にかかっており、RAMP はこの地区に入っている。ターミナルビルは「高濃度地区」には入っていない。

「高濃度地区」・・・原則立入りおよび居住禁止。自動車での移動や船舶の乗降は可。

なお、条例により全島でガスマスクの携帯が義務付けられている。

高濃度地区にあたる RAMP AREA

火山ガス（二酸化硫黄ガス）に対する対策

○運航に対して

運航のすべてのフェーズで火山ガス（SO２）注意報レベル１（一番低い警報レベル 0.2ppm：一般の人は特に制限無し）が発令された段階で運航を中止／中断する予定です。三宅島空港の運航支援体制は気象庁のおよそ 300 ヶ所の観測設備とドップラーセイダー、観測装置つきのヘリによる統計から、火山ガス（SO2：二酸化硫黄）の予測濃度が、アメダスレーダーエコーのような青・黄緑・黄・赤に色分けされた画像で６時間後までコンピューターにより表示できるようになっています。この情報を活用し、運航の可否判断をするようです。進入中の旅客機に対する緊急連絡は、カンパニーによる無線のみです。

○乗員・旅客に対して

駐機場は高濃度地区に存在し、旅客機が到着時に二酸化硫黄が高濃度で検出された場合、誘導・避難の陣頭指揮をとるのは A-NET の旅客部門です。条例により島内ではマスクの携帯義務がある

ため、羽田空港でマスクが販売されますが、緊急の際は機内に搭載されているマスクを一時的に使用し、誘導バスで脱硫装置があるターミナルまで人員を運び、そこで役場がマスクを無料で貸し出すとのことです。

〇機体に対して

火山ガスによる腐食等の影響を考慮し、A-NET では機体の定期的な洗浄や BSI（エンジンのボアスコープインスペクション）などの特別な対策を行うとのことです。

空港での救難・救護対策

滑走路の南側過走帯はがけになり海に続いています。以前、小型機がオーバーランした際、消防が漁船に連絡し救助したという実績があります。しかし、海上に不時着した際の救助体制システムとしては確立しておらず「今後地元漁協との協力について話し合う」（三宅島役場）に留まりました。また、消防本部からは、YS11 から DASH-8 に機材が変わるため DASH-8 の内部を詳しく知りたいとの意見があり、空港事務所、三宅村役場、A-NET にその旨を連絡し、試験飛行の際などに行えるよう要請しました。

暫定ターミナルすぐとなりに消防本部、北部に 12 病床をもつ診療所があります。北端部にあたる伊豆・神着地区にヘリポートがあり、東邦航空が運営する東京愛ランドシャトルいう名称で、伊豆諸島のほかの島々をヘリで結んでいます。このヘリポートはもともと、帰島に備えて島内の防災工事を行う際に整備された作業員宿舎のヘリポートを活用したもので、宿舎は脱硫設備を持ち、伊豆緊急避難施設として火山ガス濃度が高まった際の避難所になっています。

運航再開に対する島民の期待

島内で出会った三宅島島民の方々、村長、副村長を始めとした役場の方々、全員が旅客機の運航再開を心から願っている様子がひしひしと伝わってきました。波が荒いと船が接岸出来ず、物資の補給が出来なくなるような現状では当然といえるかもしれません。

三宅島を離れ東京に向かう船にのりこむ乗客の中には、高齢者や子供をつれた妊婦、家族連れなど、様々な客層の方がおり、三宅島空港の運航再開が人道的にも必要不可欠であるとの思いを感じました。だからこそ、世界でも類のない火山隣接空港である三宅島空港が、開港再開後も引き続き万全な体制で運航が継続できるよう引き続き注視していくことが重要であると考えます。

12 病床の三宅島診療所。緊急時の収容人数が今後の課題

三宅村役場を訪問。三宅村・平野村長（中央）と。

飛行場環境（AGE）委員会は今後も様々な空港の環境改善に取り組んでいきます